

導入9年目を迎えて異常気象に負けない「おいでまい」生産を目指して!!

■ 中讃地域おいでまい生産者組合 ■

中讃農業改良普及センター (高八 弘 ○原井則之 美馬仙治 村上てるみ
香西 宏 渡辺悠介 西井智尋 鬼木あさひ)

●対象の概要

中讃地域では、平成23年度に高温に強い品種として「おいでまい」の試験栽培を開始し、平成25年からは綾川地域が重点推進地域に指定されたのをきっかけとして、地域ブランドの確立を目指し「おいでまいマイスター」を中心に「中讃地域おいでまい生産者組合」を立ち上げ、地域全体として品質・食味向上と安定生産に向けた取り組みを実施してきた。

令和元年産で「おいでまい」導入9年目を迎え、栽培面積も平成30年から仲多度地域CEで荷受けを開始したことで一時的に栽培面積は増加した一方で、水稻作付け意欲の減退等により水稻全体の栽培面積は年々減少に転じている。「おいでまい」栽培農家も同様で令和元年産の中讃管内の栽培面積は1,398haとなり前年より約130haが減少した。

●課題を取り上げた理由

「おいでまい」を地域ブランドとして維持拡大していくためには、近年の異常気象などに打ち勝つ品質・収量の安定と食味向上に向けた取り組みが不可欠である。

そこで、平成24年に15戸の生産者で結成した「中讃地域おいでまい生産者組合」の活動を通して、管内の「おいでまい」生産者に向けた情報提供の充実、栽培基準田の設置による技術情報の提

供等の普及推進を図り生産者の栽培技術の高位平準化を目指してきた。更に、日本穀物検定協会「米の食味ランキング」で2年ぶりとなる「特A」の復活を目指して取り組んできた。

●普及活動の経過

1 中讃地域「おいでまい」生産者組合への支援

生産者組合の主な活動として、作付け拡大と併せて栽培講習会の開催、土壌診断に基づく栽培管理基準田の設置・調査、先進地視察研修の実施、品質・食味コンクールの実施および「おいでまいマイスター通信」による情報提供等の活動等に取り組んできた。また、県「おいでまい」委員会主催の活動への参加と併せて、食味高位安定生産展示ほの設置などを生産者と一緒になり「食味ランキング」の「特A」復活に向けて努力してきた。

2 栽培管理基準田の設置及び食味高位安定生産に向けた実証ほの設置

生産者組合員のは場に栽培管理基準田(42ヶ所)を設置し、土壌分析による適正な施肥体系の実証をはじめ、適正な水管理の実施、生育調査、品質・収量調査をもとに、生産者への的確な指導を実施してきた。また、管内5か所で食味高位安定生産実証ほを設置、収量の確保と良品質生産に向けた増肥(N:1kg)試験の実施、土壌改良材の比較試験などを実施してきた。

表-1 おいでまい栽培面積と一等比率の推移

	中讃管内		香川県		参考
	栽培面積 (ha)	1等比率 (%)	栽培面積 (ha)	1等比率 (%)	
H23	5.1	100			試験栽培開始(香系8号)
H24	16.1	97.4			"
H25	572.7	94.3	657.4	92.0	栽培者認定開始 綾川町重点推進地域
H26	631.5	74.2	721.0	73.4	"
H27	994.1	72.9	1,254	74.8	飯南・岡田CE "
H28	984.5	65.5	1,290	65.3	"
H29	922.7	79.7	1,190	77.7	"
H30	1,531.4	73.3	1,820	74.0	仲多度地域CE "
R1	1,398.0	-	1,610	65.2	"



収穫物調査作業風景

3 先進地視察調査および研修

先進地調査では、国立研究開発法人西日本農業研究センターにおいて、新しいブランド米品種の育成動向及び「おいでまい」の品質向上に資する技術的知見を深めた。

「北興化学工業株式会社岡山工場」では、新農薬に関する情報収集を行った。

加えて県内研修として、香川県農業試験場において穂肥診断の実施と穂肥施用及び栽培のポイントについて学んだ。

また、「おいでまい」委員会主催のマイスター研修では、善通寺市と綾川町のマイスター農家の栽培管理基準田を訪問し、栽培管理のポイントの説明を受け生産者のスキルアップが図られた。

4 「おいでまい」品質・食味コンクールの開催

「おいでまい」生産者組合では、平成25年から栽培管理基準田を設置し、生育状況の調査と併せて収穫された水稻の収量、品質調査と食味調査を実施し、高品質・良食味米（外観品質1等、整粒歩合85%以上、玄米タンパク含有率6.5%以下）を目標に取り組んできた。特に優秀な生産者6名を表彰している。上位のものは玄米タンパク含有率6.0%、食味スコア81、整粒率77.3となり高品質・食味向上が図られていた。また、「おいでまい」委員会主催のおいでまい品質・食味コンクールにおいても、応募点数83点が出品され中讃地域の生産者がほぼ独占で受賞した。

表－2 栽培基準田の品質・食味データの推移

実施年	基準田設置数	単収(kg/10a)	スコア値(点)	タンパク含量(%)
25年産	31	—	70.9	6.3
26年産	48	496	72.3	6.6
27年産	46	410	74.4	6.2
28年産	42	452	70.8	7.0
29年産	44	494	69.9	6.9
30年産	43	370	71.1	6.6
元年産	42	435	74.1	6.7

5 栽培管理技術支援

栽培講習会は、4月から水稻の育苗講習会をスタートに本田初中期の管理、穂肥診断、適期収穫と併せて15回（1,219名出席）開催し、「おいでまい」栽培マニュアルの基準に沿った指導と近年の異常気象に対応した対策等きめ細かい適正な管理を呼びかけた。

情報提供として、県「おいでまい委員会」と連携して作成した「おいでまい通信」（計5号）の発行、「おいでまいマイスター通信」（計7

号）の発行などで生産者への情報提供、JAと連携した広報を活用した栽培管理情報の提供等を通して生産者の技術の高位平準化を目指している。



マイスターによる穂肥診断の様子
（農業試験場にて）

●普及活動の成果

1 高品質・安定生産の維持

今年度は、平成30年度に続き異常気象のなか作況指数は95と低く、1等比率は「ヒノヒカリ」が7.0%に対して「おいでまい」は65.2%と目標の75%以上には達しなかったものの、土づくり、肥培管理の適正化、必須防除の徹底など栽培管理技術の高位平準化が浸透し単収向上と高い等級比率を維持しているものと考えられる。

2 栽培管理技術のレベルアップ

おいでまい生産者組合構成員においては、土壌分析結果を踏まえて土壌改良材（鉄、ケイ酸）の積極的施用と適正施肥の普及が図られ、土壌分析結果からも改善が見られている。

病虫害防除に関してもドローンを活用した効率的防除の普及推進に努めている。

3 「特A」復活を目指して

おいでまい生産者組合では、生産者と関係機関が一体となって取り組んできた結果、「特A」の評価を得ることができた。

●今後の普及活動の課題

水稻全体の栽培面積は年々減少するとともに、近年の日照不足、登熟期の高温障害、大型台風の上陸など「おいでまい」栽培にとって厳しい条件が続いている。このため生産者からは、異常気象に対処するきめ細かい技術指導が求められている。そこで、中讃管内の「おいでまい」マイスターとJAなど関係機関との連携をより密にし的確な情報提供を行い「おいでまい」のブランド力向上と高品質・安定生産に向けた技術確立を推進していく必要がある。